



PIF × SuMi TRUST

2022年9月30日

各位

三井住友信託銀行株式会社

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)の契約締結について

(株式会社トリドールホールディングス)

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、株式会社トリドールホールディングス(代表取締役社長:栗田貴也、以下「トリドールホールディングス」)に対し、国連環境計画・金融イニシアティブ(以下「UNEP FI」)(※1)が提唱したポジティブ・インパクト金融原則(※2)に即した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)」の融資契約(以下「本件」)を締結いたしました。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響とネガティブな影響)を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs達成への貢献度合いを評価指標として活用し、開示情報に基づきモニタリングを行い、エンゲージメントを通じて活動を支援していくことが最大の特徴です。

本件は、株式会社日本格付研究所(代表取締役社長:高木 祥吉)より評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について第三者意見(※3)を取得しています。

当社では、ポジティブ・インパクト・ファイナンス等のサステナビリティに関するソリューションの提供により、SDGs 達成に資するお客さまの事業活動を支援するとともに、お客さまの中長期的な企業価値の向上に貢献することを引き続き目指していきます。

<トリドールホールディングスについて>

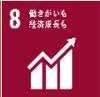
トリドールホールディングスは、讃岐うどん専門店の「丸亀製麺」やハワイアンカフェ「コナズ珈琲」等を運営する日本発のグローバルフードカンパニーです。主要ブランドにおいてはオープンキッチン形式を採用し、調理過程が目で楽しめ、臨場感と「手づくり感・できたて感・安心感」を味わえるエンターテインメント性の高い空間を実現しており、あらゆる国の文化、地域性を尊重した事業を展開しています。

2022年3月には、ESG マテリアリティ(重要課題)を特定するとともに、同5月には新中長期経営計画を発表し、『本能が歓ぶ食の感動体験を探求し世界中をワクワクさせ続ける』を新たなミッション、『食の感動で、この星を満たせ。』をスローガンに掲げ、トリドールグループの持続的成長とサステナブルな社会の実現を目指すべく、後述の各テーマにおける活動を中心に積極的な取り組みを行っています。

<本件の概要>

当社は、本件締結にあたり、トリドールホールディングスが SDGs 達成に対しインパクトを与える以下のテーマについて定性的、定量的に評価しました。

テーマ①	食を通じた感動提供
内容	(a)食を通じた感動提供を拡げるため、店舗数の拡大を進める (b)安全な食の提供を維持するため、管理体制の維持・強化を行う
目標と指標(KPI)	(a)店舗数の拡大による食品提供機会/量の拡大 目標:店舗数の拡大(2024年度までに2,500店舗、2027年度までに5,500店舗超) 指標(KPI):店舗数 (b)食の安全に対する同社内での管理体制強化 目標:食品衛生法上の行政処分0件の維持 指標(KPI):食品衛生法上の行政処分量
関連するSDGs	

テーマ②	人と社会とともに
内容	(a)店舗展開による雇用拡大と離職者の抑制 (b)人材育成 (c)多様性の尊重 (d)働き甲斐のある環境づくり
目標と指標(KPI)	(a)店舗展開による雇用拡大と離職者の抑制をすすめる 目標:2022年度以降、離職者に占める早期離職者率を社員:70%以下、パートナースタッフ:50%以下に抑制する 指標(KPI):離職者に占める早期離職者率 (b)(ア)グループ教育カリキュラムの策定と実行 目標:2022年度中のグループ教育カリキュラム策定 指標(KPI):グループ教育カリキュラムの進捗状況 (b)(イ)提供する食品クオリティの維持のため、麵職人の育成を行うとともに、うどん文化の継承を目指す 目標:麵職人の育成と定着(2022年度末までに全店舗に麵職人を配置) 指標(KPI):麵職人のいる店舗の割合 (c)多様性の尊重(特に女性活躍の推進) 目標:女性活躍推進(2024年度女性管理職比率20%以上) 指標(KPI):女性管理職比率 (d)理念の浸透と、安全安心な職場環境づくりの推進 目標:2022~2024年度の間、労働災害度数率を2.0未満及び千人率を2.0未満に抑える 指標(KPI):労働災害度数率、千人率
関連するSDGs	  

テーマ③	地球とともに
内容	資源循環の推進
目標と指標(KPI)	資源循環を進める 目標 ア:食品廃棄排出量を 2025 年度までに 130 kg/百万円に削減 イ:食品再生利用等実施率 2025 年度までに 55%に増加 指標 (KPI) ア:食品廃棄排出量 イ:食品再生利用等実施率
関連する SDGs	  

(※1) 国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI)

国連環境計画 (UNEP) は、1972 年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG (環境・社会・企業統治) への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※2) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年1月に策定した、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた金融の枠組。企業が SDGs 達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くもの。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

(※3) ポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性についての第三者意見

株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以 上